

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五（六・公衆）〇四七二（22）七二〇七

最も関心のあったテーマ『核戦争の危機と労働者階級』

労働学校オ6回講座（講師：小倉俊夫氏）に参加して

感想文
T支部A生

第二次世界大戦が終って三十九年たった今日、史上三度目の世界戦争・核戦争の危機が叫ばれ、又、欧米では異状なシエルトブームがおこっているとか、スイスでは設置が法律で義務づけられたとかの記事が新聞をにぎわしているなかで、私達が生きていける現代はどのような時代なのかをきちつととらえ、なおかつ反戦・反核の闘いを展望し確信がもてるようなものとして今回の「核戦争の危機と労働者階級」のテーマは情勢に即したものであり、私としては労働学校開校以来、かつてない関心をもって参加しました。

核戦争挑発するレーガン、核保有国めざす中曾根に怒り

講義はまず、①現在の核兵器の実体ということで、世界の数多くの場所に四万発を超える核弾頭が保有・実戦配備されている。それらは何らかの運搬手段をもって発射され、運搬手段には、陸・海・空があつて運搬手段の主力がミサイルであること。原爆の原料である核分裂物質プルトニウムがこの日本でも原子力発電所を一年間運転すると「長崎型の原爆数万発分のプルトニウム」ができること。その廃棄物の蓄積がどのような影響を与えるのか、その毒性と核物質としての威力は永遠に人類にとつて脅威となり続けることが話されました。

②大陸間弾道弾の仕組みのなかでは、二人の発射官の地下カプセル二十四時間勤務や誘導システムがMIRV（旧世代）は、実際に目標の百メートル以内の正確さは不可能であつたのに対し、MARV・MX・D5・パーシングII（新世代）計画が進行中のものを含め狙った戦略目標を確実にとらえるズレ修正の改良型としてさらに脅威を増して登場してきていること。米・ソが互いに直接相手国の中枢機能を破壊できるように照準を合わせ作らせてきている等の講義は、私達がおかれている状況がいかに危険なものであるのか、従つて、それは絶対使用させてはならないという本質をついてのつったんだものとしてあつた。まさに理解の不足と無知からくる安易な考えを改めて考え

三里塚の闘いに学んで 反戦・反核を闘う

なおさせられる思いでした。

③核兵器の戦力の尺度については、ミサイル爆撃機を何機（基）保有しているのかというよりも「弾頭数」「信頼性」「準備度」「命中精度」「致命度」などの指標が「実際の威力」を表現するものとして非常に重要であつて具体的に資料に基づいてアメリカ・ソ連の戦力構成を比較し、アメリカが優位であり、支配者階級が意図的に宣伝している「ソ連脅威論」なるものが全くのデマである、ことが説明されました。

こうしたなかでレーガンが、「全面核戦争をやっても勝つ」という体制づくりとその実戦演習に必死になつている姿には恐ろしさを覚える。太平洋上空を二十四時間三百六十五日休みなく旋回し続ける空中指令室とも呼ばれる作戦機は、十キロにも及ぶアンテナが要所要所に張りめぐらされたなかを、地下発射コントロールセンターが核攻撃で破壊されてしまったときに各戦略基地・潜水艦を含め、通信・指揮を上空から行なうというものである。また、F15で宇宙空間を飛んでいるミサイルを打ち落とす計画をも進めていることに驚いた。

このレーガンの政策にふりまわされて直対応しているソ連の反人民的対応は、はつきりと弾劾されなければなら

ない。広島・長崎を再びくりかえしてはならないというところが全人民の原点でなくてはならないのに、ソ連が核で対抗しようとしていることは、人民のそうした要求に真向から敵対しているものとして我々は断じて許容しがたいものであつた。

さらに、中曾根のつづいている態度すなわち、「核を使う使わぬは核保有国の勝手である」なる発言を見ても中曾根がどういう方向を目指そうとしているのか明らかになつた。レーガンの戦争政策を支持することをとおして日本の核武装化をせんとするものであつて、我々は、このことをしつかり見据え、同時に全世界に核兵器があるなかで、無力感にとらわれることなく核兵器に反対すること、それが原点だと思つた。二度と戦争をくり返してはならないし、激しい怒りをもって立ち上り、核戦争核兵器を廃絶していかなければならないことをさらに学んだ。

その視点から三里塚の闘いがいい例であること、すなわち、19年間にわたつて日帝・中曾根と真向から対決し勝利し、反戦・反核の砦として頑張つていくことが全世界人民に限りない勇気を与えていることも、具体的な世界各国で闘っている人たちの言葉や事例をもつて教えてくれた。核戦争に反対する闘いは全世界の闘いと連なつており、私たちが非妥協・不屈に闘いつづけていくなかに、支配者と核兵器を打ち倒せる力があつたことを強く感じました。（寄稿）